

授業科目	構音障害Ⅲ (器質性)				
担当者	藤原 百合				
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

器質性構音障害（口蓋裂）について、基礎的知識、口蓋裂に伴う様々な問題点や、チームアプローチについて学ぶ。また、鼻咽腔閉鎖機能検査や構音検査の実施、治療計画の立て方や構音訓練について学ぶ。

■ 到達目標

口蓋裂に伴う構音障害の評価・診断、指導・訓練に関する知識・技能・態度を身につける。

■ 授業計画

- 第1回 正常な発話のプロセス：呼吸、発声、共鳴、構音
- 第2回 器質性構音障害の定義、原因疾患、発症メカニズム、関連障害
- 第3回 口蓋裂に伴う発話の障害（発声、共鳴、構音）、鼻咽腔閉鎖機能不全の影響
- 第4回 評価：発話の聴覚的印象と口腔顔面の形態・機能との関連
- 第5回 聴覚的評価演習
- 第6回 機器を用いた評価：鼻咽腔閉鎖機能、構音機能
- 第7回 器質的異常に対する医学的治療：外科的、歯科補綴の治療
- 第8回 言語治療：機能訓練
- 第9回 言語治療：系統的構音訓練、視覚的フィードバック訓練
- 第10回 口蓋裂に伴う問題：哺乳・離乳、発達、聴力、心理社会的問題
- 第11回 口蓋裂のチーム医療、年齢による対応の変化
- 第12回 症例検討：聴覚的評価から治療方針を考える
- 第13回 症例検討：構音訓練演習
- 第14回 器質性構音障害国家試験過去問
- 第15回 まとめ

■ 評価方法

筆記試験（90%）、演習（10%）

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

資料を前もって配布しますので、教科書の該当箇所を読んで予習・復習してください。

■ 教科書

書 名：標準言語聴覚診断学 発声発語障害学
 著者名：藤田郁代 監修 熊倉勇美、今井智子 編集
 出版社：医学書院

■ 参考図書

書 名：DVD 「目で見る日本語音の産生」「目で見る構音障害」
 著者名：藤原百合、山本一郎
 出版社：EPG 研究会

■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する場合があります。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって

疑問点は皆で共有できるよう授業中に積極的に質問してください。